

NIKKOR

NIKKOR Z 800mm f/6.3 VR S

活用ガイド

- 製品をお使いになる前に本書をよくお読みください。
- 「安全上のご注意」(5 ページ) も必ずお読みになり、正しくお使いください。
- お読みになった後は、いつでも見られるようにしてください。

目次

はじめに.....	4
ご使用の前に.....	4
安全上のご注意.....	5
レンズの使い方.....	8
各部の名称と機能.....	8
カメラへの取り付け方・取り外し方.....	19
レンズフードの取り付け方・取り外し方.....	24
ストラップの取り付け方.....	27
メモリーリコールの使い方.....	28
三脚座リングの使い方.....	30
手ブレ補正機能.....	32
フィルターについて.....	33
取り扱い上のご注意.....	39
お手入れについて.....	41
資料.....	42
カメラの AF 補助光を使用するときのご注意.....	42
内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときのご注意.....	43
アクセサリ.....	44

仕様.....	45
サービスとサポート.....	47
ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内.....	47
ニコンイメージングサポートページのご案内.....	48

はじめに

ご使用の前に

ご使用の前に本書をよくお読みの上、正しくお使いください。また、カメラの説明書もご覧ください。

- このレンズは、ニコン Z マウントのミラーレスカメラ専用です。
- カメラのファームウェアを最新版にバージョンアップしてお使いください。ファームウェアが最新になっていない場合、レンズを正しく認識しなかったり、機能の一部が使用できないことがあります。最新のファームウェアは、ニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

安全上のご注意

あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、ご使用前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

本書をお読みになった後は、いつでも参照できるようにしてください。



警告

「死亡または重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

お守りいただく内容を、以下の図記号で区分しています。



してはいけない内容です。



分解、修理または改造してはいけない内容です。



人体やものに密着させてはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。

警告

	分解、修理または改造をしない 落下などによる破損で内部が露出したら、露出部に触らない 感電やけがの原因になります。
	熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、直ちにカメラの電源を取り外す 放置すると、発火、やけどの原因になります。
	水でぬらさない ぬれた手で触らない 感電や発火の原因になります。
	引火、爆発のおそれのある場所では使わない プロパンガス、ガソリン、可燃性スプレーなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使うと、爆発や火災の原因になります。
	レンズで直接太陽や強い光を見ない 失明や視力障害の原因になります。
	幼児の手の届くところに置かない 故障やけがの原因になります。 小さな付属品を誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。 <u>飲み込んだら、すぐに医師の診断を受けてください。</u>
	ストラップ類を首に巻きつけない 事故の原因になります。
	高温環境や低温環境では、直接触らない やけどや低温やけど、凍傷の原因になることがあります。

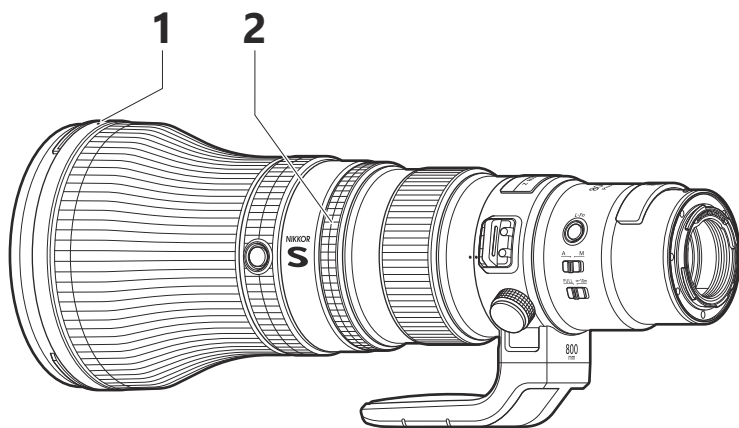
注意

	レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない 集光して、内部部品の破損や発火の原因になることがあります。逆光撮影では、太陽を画角から十分にずらしてください。画角から太陽をわずかに外しても、発火の原因になります。
	夏場の車内や直射日光の当たる所など高温環境に放置しない 故障や発火の原因になります。
	三脚などにカメラやレンズを取り付けたまま移動しない 故障やけがの原因になります。
	心臓ペースメーカーなどの医療機器からは 5cm 以上離す 近づけ過ぎると、製品に内蔵された磁石が医療機器に影響を与えるおそれがあります。

レンズの使い方

各部の名称と機能

各部の名称と機能は以下の通りです。



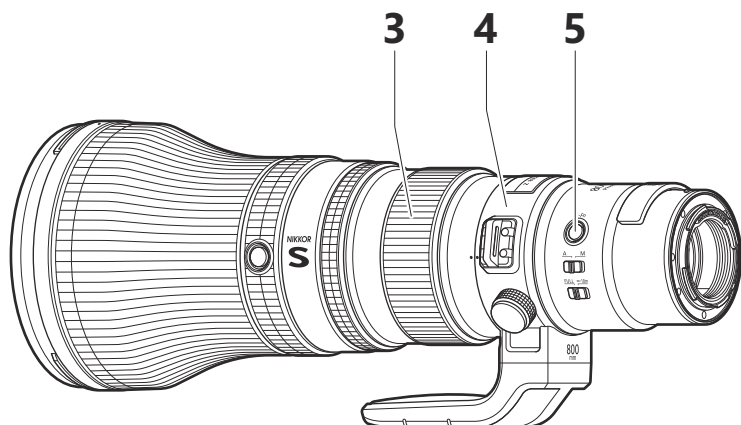
1 フード着脱指標

レンズにフードを取り付けるときの指標です。

📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」\(p.24\)](#)

2 コントロールリング

このリングを回転させると、[絞り]や[露出補正]などカメラで設定した機能を使用できます。詳しくは、カメラの説明書に記載されている[カスタムボタンの機能]または[カスタムボタンの機能（撮影）]の説明をご覧ください。



3 フォーカスリング

手動でピントを合わせるときに使用します。

- ・オートフォーカス時に手動でピントを合わせて撮影する場合は、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスリングを回してピントを合わせます。

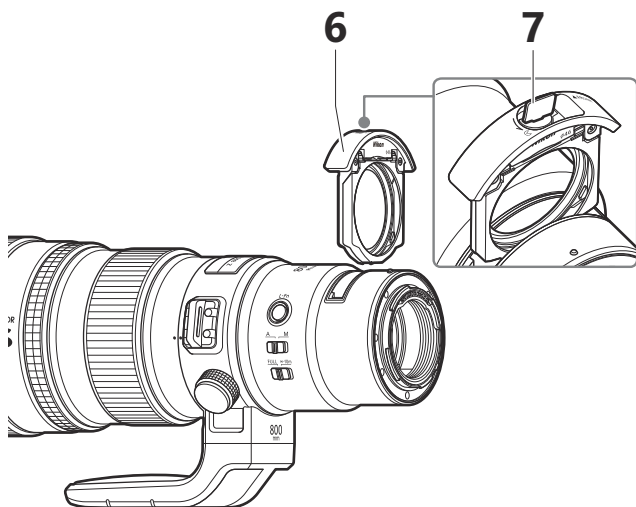
4 三脚座リング

三脚を三脚座に取り付けた状態で、カメラの横位置や縦位置を変更することができます。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.30\)](#)

5 L-Fn ボタン

このボタンを押すと、カメラで設定した機能を使用できます。詳しくは、カメラの説明書に記載されている**〔カスタムボタンの機能〕**または**〔カスタムボタンの機能（撮影）〕**の説明をご覧ください。



6 組み込み式フィルターホルダー

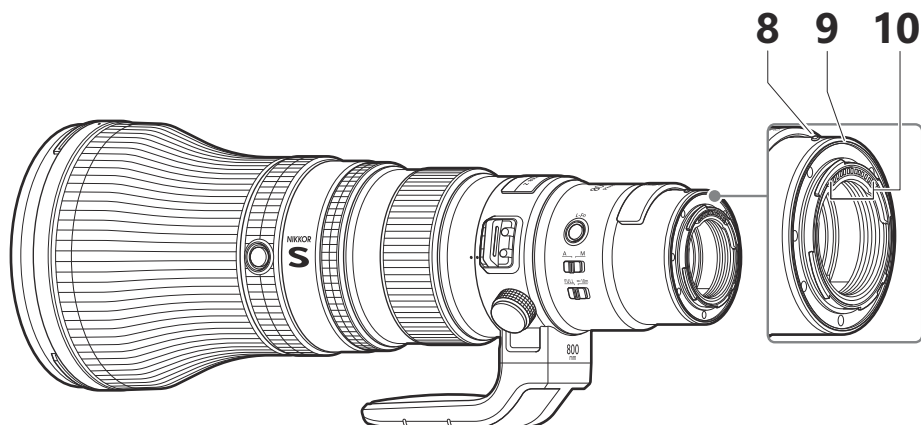
別売の 46mm ネジ込み式フィルターを装着できます。

📖 [「フィルターについて」 \(p.33\)](#)

7 組み込み式フィルターホルダー着脱ノブ

組み込み式フィルターホルダーの着脱時に操作します。

📖 [「フィルターについて」 \(p.33\)](#)



8 レンズ着脱指標

カメラにレンズを取り付けるときの指標です。

📖 [「カメラへの取り付け方・取り外し方」 \(p.19\)](#)

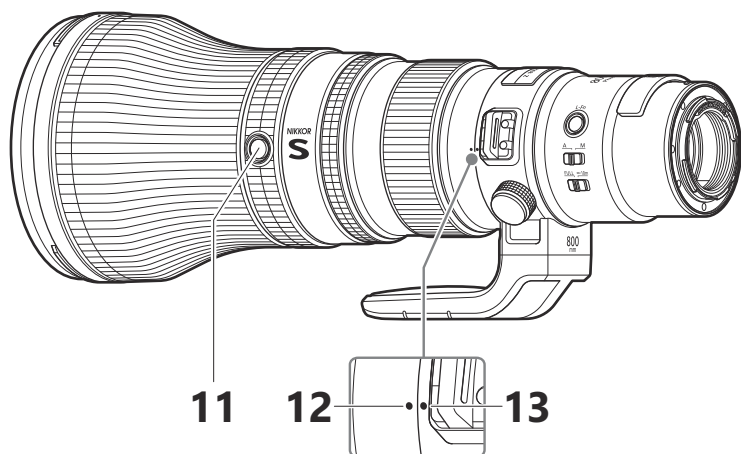
9 レンズマウントゴムリング

レンズをカメラに装着しているときに、レンズとカメラのマウント接合部からの水滴やほこりの侵入を防ぎます*。

* すべての条件で完全な防塵・防滴を保証するものではありません。

10 CPU 信号接点

カメラとレンズの間で情報を伝達します。



11 L-Fn2 ボタン

このボタンを押すと、カメラで設定した機能を使用できます。詳しくは、カメラの説明書に記載されている**「カスタムボタンの機能」**または**「カスタムボタンの機能（撮影）」**の説明をご覧ください。90°ごとに4カ所つけられています。

12 レンズ回転位置指標

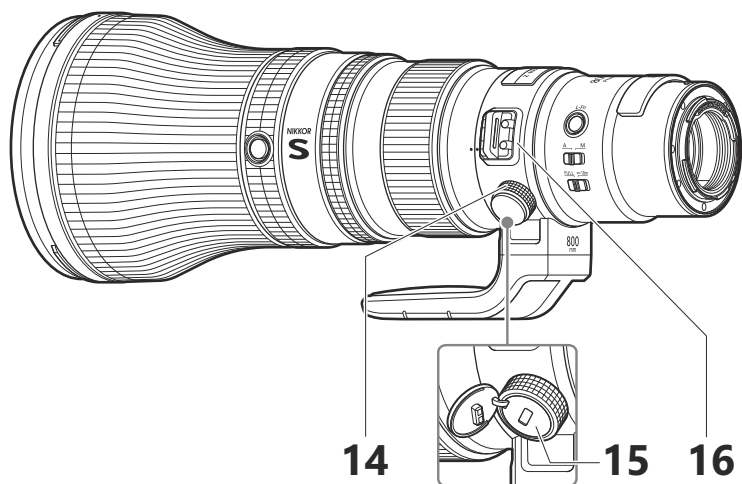
装着したカメラを横位置や縦位置に回転させるときの指標です。90°ごとに4カ所つけられています。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.30\)](#)

13 三脚座リング回転位置指標

装着したカメラを横位置や縦位置に回転させるときの指標です。90°ごとに3カ所つけられています。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.30\)](#)



14 三脚座リング止めネジ

三脚座リングを固定するネジです。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.30\)](#)

15 セキュリティースロット (盗難防止用セキュリティーワイヤー取り付け部)

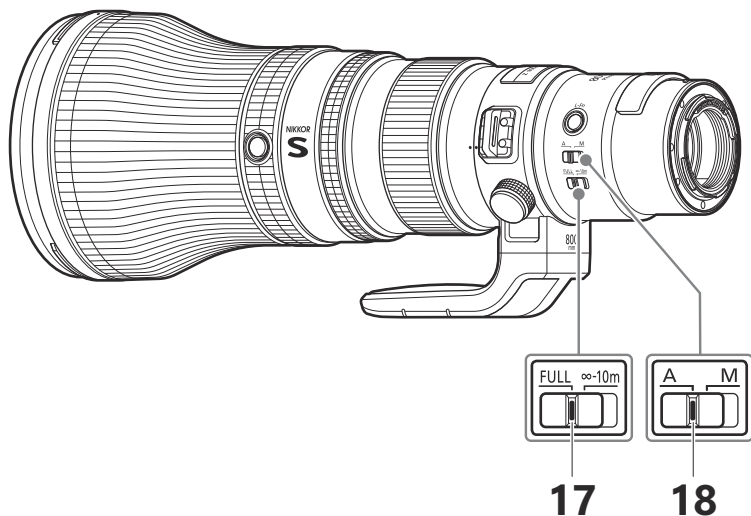
市販の盗難防止用セキュリティーワイヤーを取り付けることができます。

取り付け方はセキュリティーワイヤーの説明書をご覧ください。

16 吊り金具

ストラップを取り付けられます。左右2カ所につけられています。

📖 [「ストラップの取り付け方」\(p.27\)](#)



17 フォーカス制限切り換えスイッチ

オートフォーカスでピント合わせを行う範囲を切り換えられます。

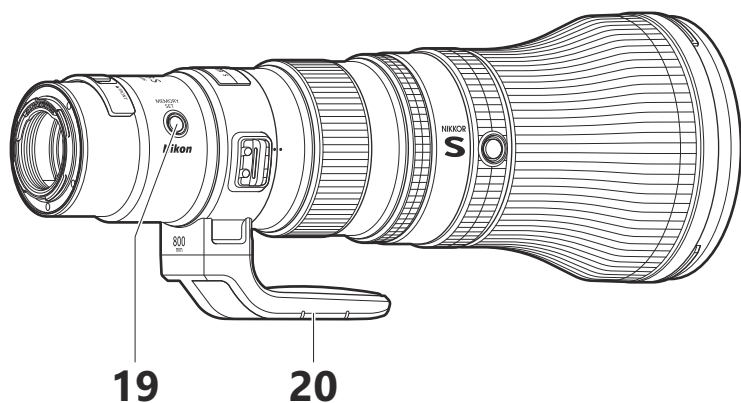
- **FULL** : すべての撮影距離（ ∞ から 5m の全域）でピント合わせが行えます。
- **$\infty-10\text{m}$** : ピント合わせを行う範囲を 10 m 以上に制限します。撮影距離が 10 m 以上の場合に、ピント合わせの時間を短縮できます。

18 フォーカスモード切り換えスイッチ

フォーカスモードを切り換えられます。

- **A** : オートフォーカスになります。
- **M** : マニュアルフォーカスになります。

カメラのフォーカスモードがマニュアルフォーカスのときは、レンズで**[A]**を選んでいてもマニュアルフォーカスになります。



19 メモリーセットボタン

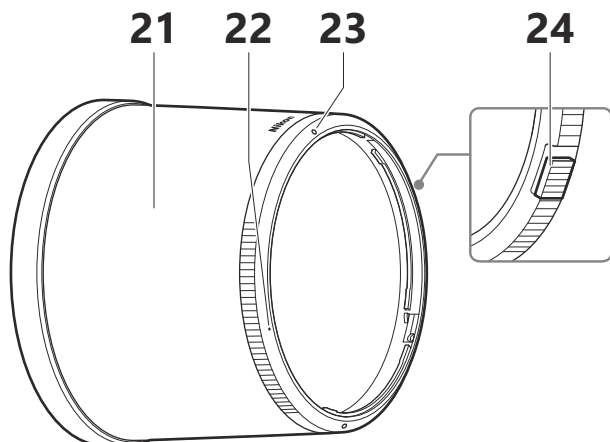
レンズにピント位置を登録するときに使います。レンズにピント位置を登録した状態で「フォーカス位置の呼び出し」を割り当てたボタンを押すと、レンズに登録したピント位置に瞬時に合わせることができます（メモリーリコール）。

📖 [「メモリーリコールの使い方」\(p.28\)](#)

20 三脚座

三脚を取り付けられます。三脚座を取り外したい場合は、ニコンサービス機関へお問い合わせください。

📖 [「三脚座リングの使い方」\(p.30\)](#)



21 レンズフード

画像に悪影響を及ぼす光線をカットします。レンズ面の保護にも役立ちます。

📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」 \(p.24\)](#)

22 レンズフード取り付け指標

レンズにフードを取り付けるときの指標です。

📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」 \(p.24\)](#)

23 レンズフードセット指標

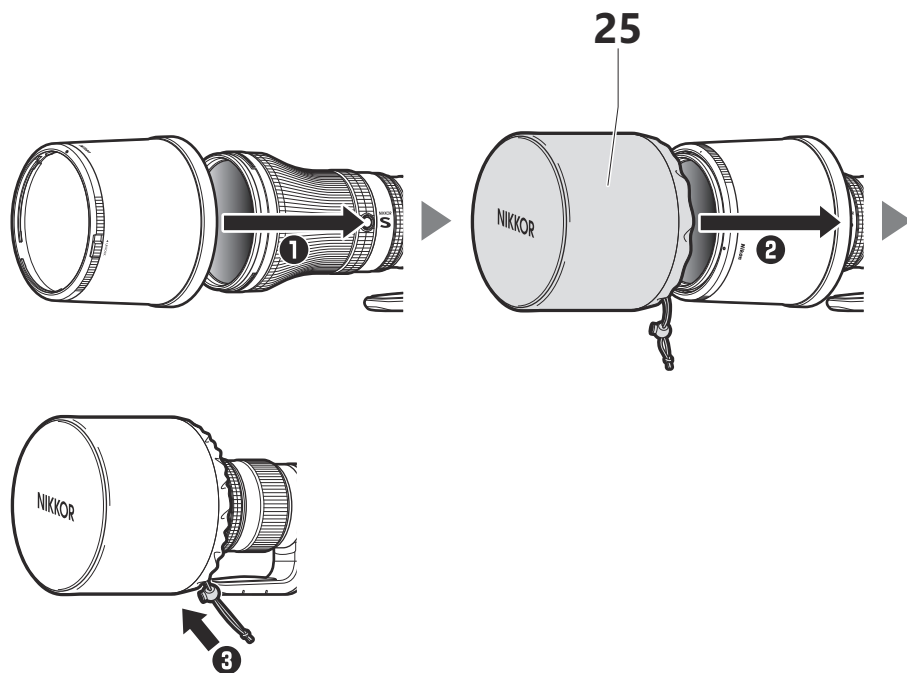
レンズにフードを取り付けるときの指標です。

📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」 \(p.24\)](#)

24 レンズフード取り外しノブ

レンズフードを取り外すときに使用します。

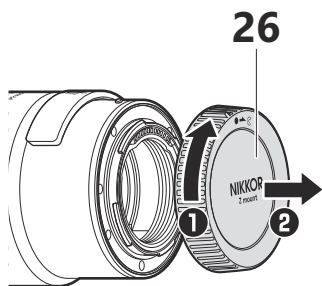
📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」 \(p.24\)](#)



25 かぶせ式レンズキャップ（フロントキャップ）

- レンズを持ち運ぶとき、またはレンズをカメラに装着した状態で持ち運ぶときは必ずレンズキャップを取り付けてください。
- レンズフードをレンズに逆向きに取り付けた後に、レンズキャップをかぶせてください。

📖 [「レンズフードの取り付け方・取り外し方」](#) (p.24)

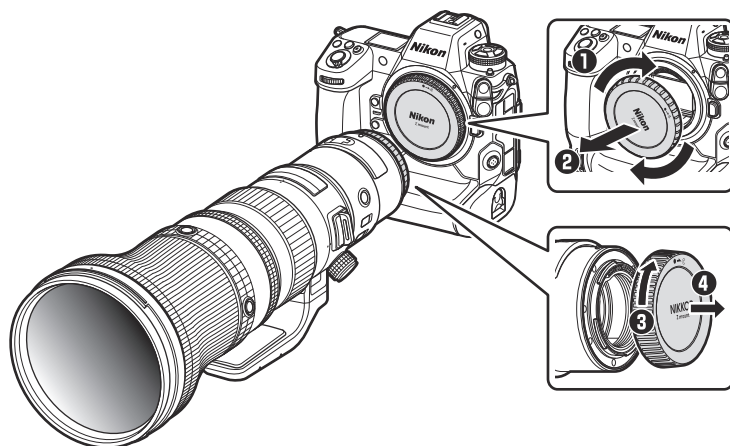


26 レンズキャップ（リアキャップ）

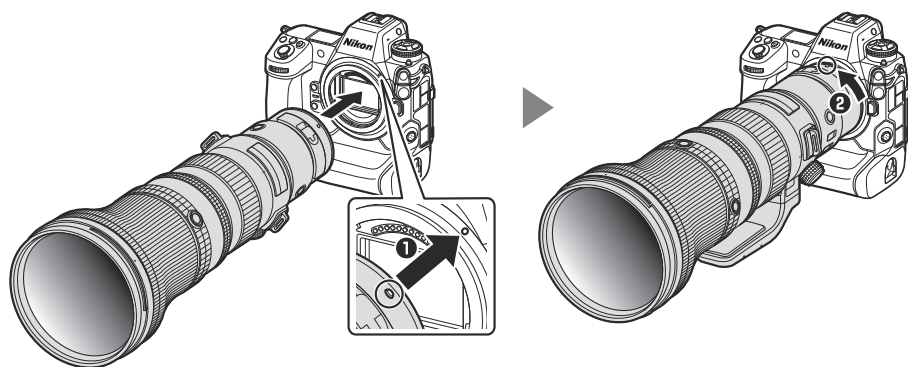
カメラへの取り付け方・取り外し方

取り付け方

1. カメラの電源を OFF にして、カメラのボディーキャップとレンズのリアキャップを外す

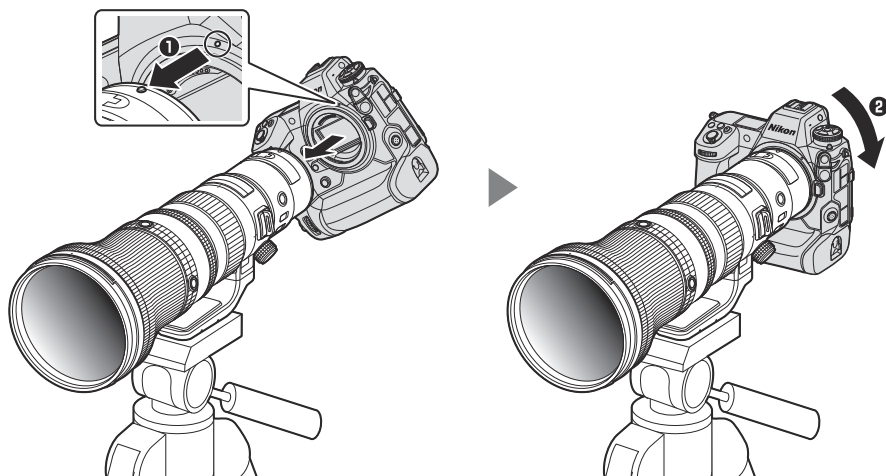


2. カメラとレンズのレンズ着脱指標を合わせ (①)、反時計回りにカチッと音がするまでレンズを回す (②)



✓ レンズを三脚に取り付けた状態でカメラを取り付ける

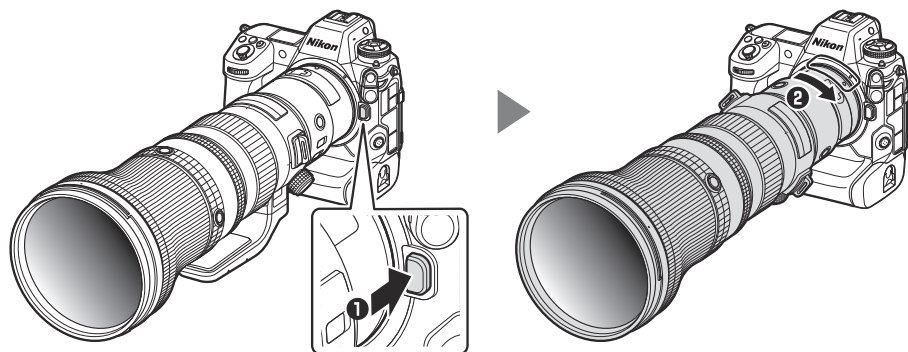
カメラとレンズのレンズ着脱指標を合わせ（①）、時計回りにカチッと音がするまでカメラを回してください（②）。



取り外し方

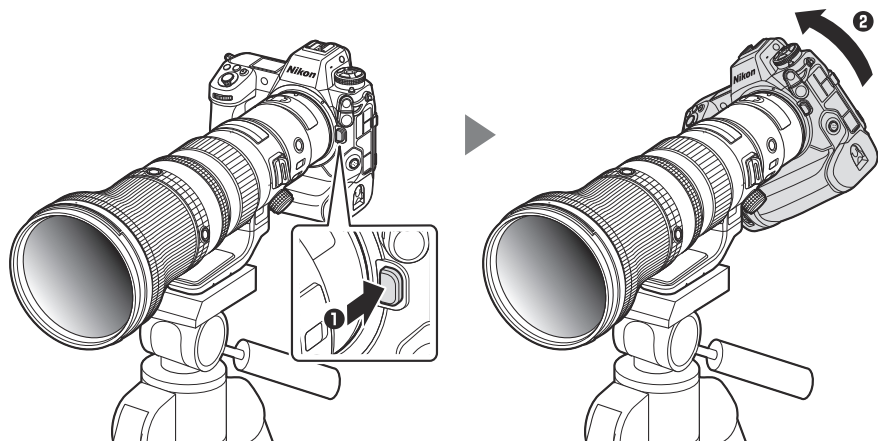
1.カメラの電源を OFF にする

2.レンズ取り外しボタンを押しながら (①)、時計回りにレンズを回して取り外す (②)



✓ レンズを三脚に取り付けた状態でカメラを取り外す

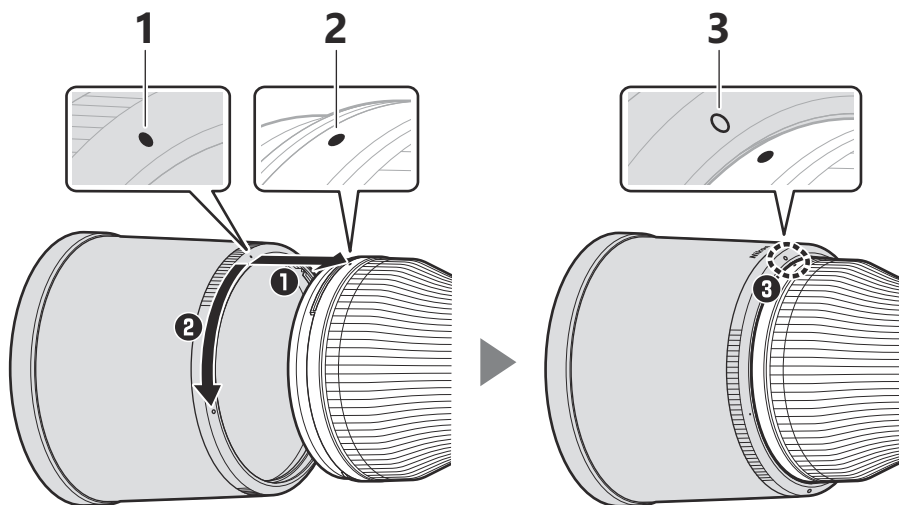
レンズ取り外しボタンを押しながら **①**、反時計回りにカメラを回して取り外してください **②**。



レンズフードの取り付け方・取り外し方

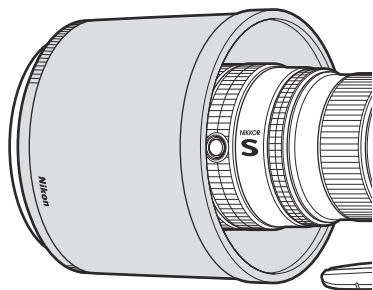
取り付け方

- レンズフード着脱指標とレンズフード取り付け指標を合わせて (①)、レンズフードを矢印 (②) の方向に回転させ、レンズフード着脱指標とレンズフードセット指標を合わせてください (③)。



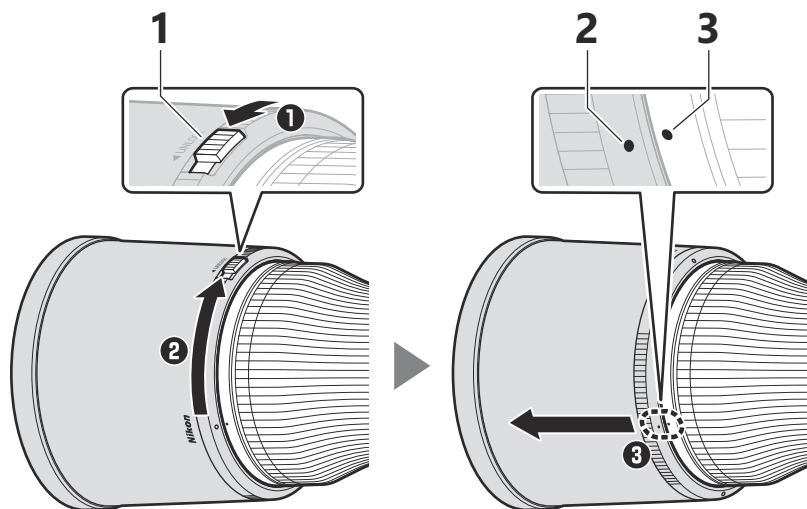
- 1 レンズフード取り付け指標
- 2 レンズフード着脱指標
- 3 レンズフードセット指標

- 収納時はレンズフードを逆向きにしてレンズに取り付けられます。



取り外し方

- レンズフード取り外しノブをカチッと音がするまでスライドして（①）からレンズフードを矢印（②）の方向に回転させ、レンズフード着脱指標とレンズフード取り付け指標を合わせて取り外します（③）。



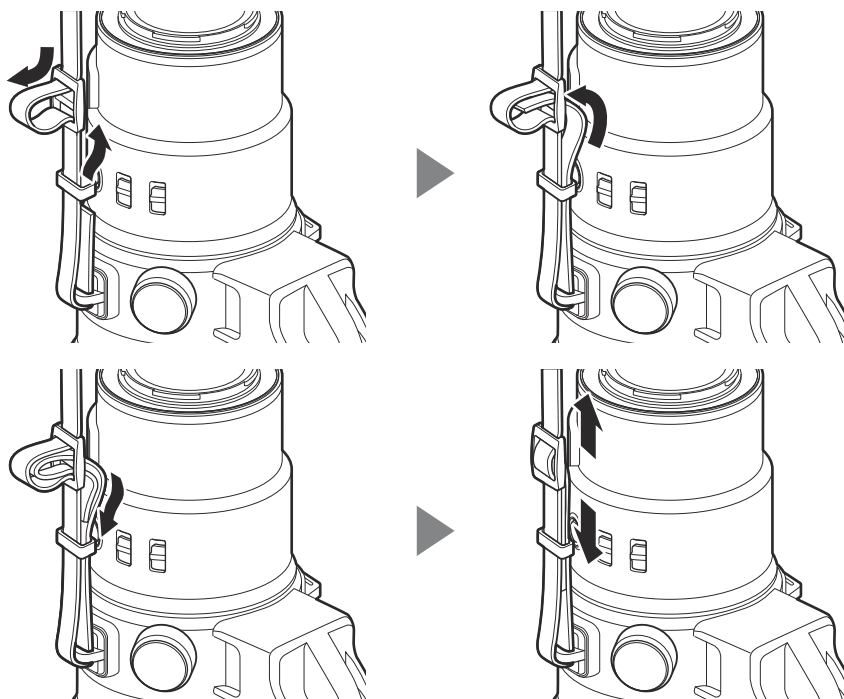
- 1 レンズフード取り外しノブ
- 2 レンズフード取り付け指標
- 3 レンズフード着脱指標

- レンズフードが逆向きに取り付けられているときも、同様の手順で取り外します。

ストラップの取り付け方

ストラップの取り付け手順は次の通りです。

- 誤った取り付け方をすると、不意に外れてレンズが落下し、けがの原因になることがあります。
- ストラップを使用して持ち運ぶときは、レンズ用ストラップを使ってください。カメラに取り付けているストラップを使って持ち運ぶと、カメラおよびレンズのマウント部分やストラップが破損して落下するおそれがあります。

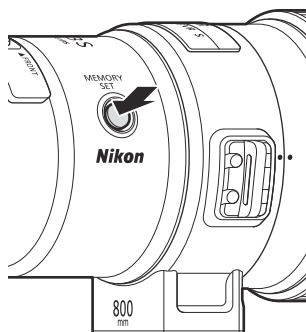


メモリーリコールの使い方

レンズにピント位置を登録して、瞬時に呼び出すことができます。決まったピント位置で頻繁に撮影する場合に便利です。

ピント位置の登録方法

- 被写体にピントを合わせて、メモリーセットボタンを長押しします。ピント位置が正しく登録されると、ピント位置が登録されたことを示すアイコンがカメラの画像モニターに表示されます。



- ピント位置の登録は、フォーカスモードの設定にかかわらず可能です。
- ピント位置を登録すると、カメラの電源を OFF にしてもピント位置が記憶されています。
- レンズをカメラから取り外すと、登録したピント位置がリセットされます。

ピント位置の呼び出し方法

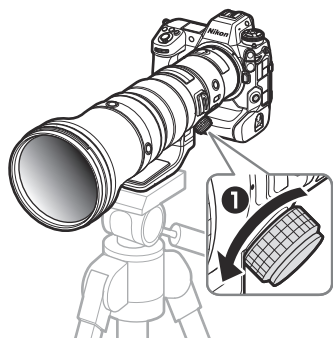
カメラの〔カスタムボタンの機能〕または〔カスタムボタンの機能（撮影）〕で〔フォーカス位置の呼び出し〕を割り当てたボタンを押し続けている間、登録したピント位置にセットされます。ボタンを押したままシャッターをきくと、登録したピント位置で撮影します。ボタンを放すと、オートフォーカスまたはマニュアルフォーカスに戻ります。

三脚座リングの使い方

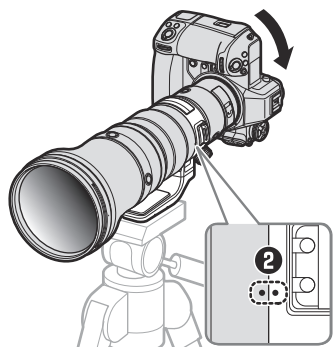
三脚を使用するときは、カメラ側ではなくレンズ側の三脚座に取り付けてください。

三脚をレンズの三脚座に取り付けた状態でも、カメラ位置（縦位置/横位置）を変更することができます。

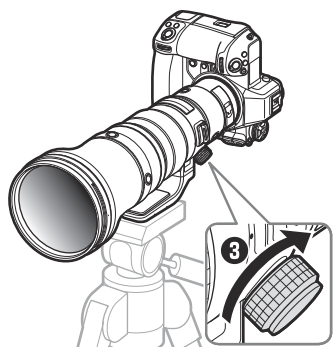
1. レンズの三脚座リング止めネジを少し緩める (①)



2. 位置指標 (2) を目安にしてカメラを回転させる



3. 三脚座リング止めネジを締めて固定する (3)



手ブレ補正機能

このレンズには手ブレ補正機能があります。手ブレ補正機能はカメラで設定できます。詳しくは、カメラの説明書をご覧ください。

手ブレ補正機能を使用すると、使わないときと比べてシャッタースピードを遅くして撮影できるため、シャッタースピードの選択範囲が広がります。

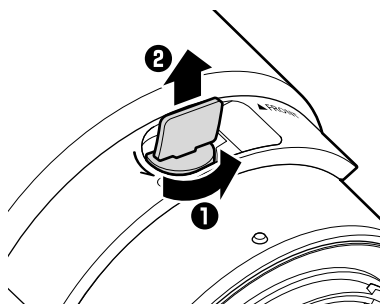
✓ 手ブレ補正機能について

- 手ブレ補正機構の構造上、レンズを振るとカタカタ音がすることがありますが、故障ではありません。
- 三脚撮影時にカメラの手ブレ補正機能を〔**ノーマル**〕または〔**スポーツ**〕に設定すると、三脚ブレを軽減します。ただし、三脚の種類や撮影条件により、〔**しない**〕にした方がよい場合があります。
- 一脚を使用するときには、〔**ノーマル**〕または〔**スポーツ**〕に設定することをおすすめします。

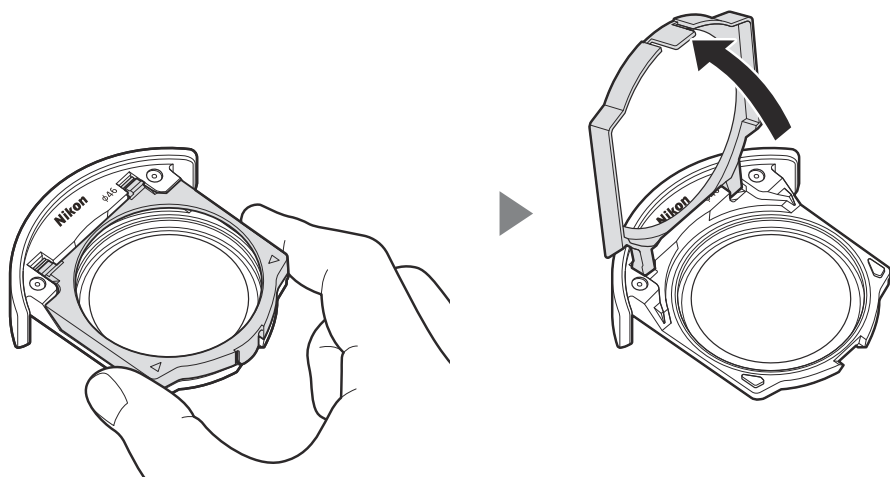
フィルターについて

このレンズはフィルター装着しない前提で設計されているため、通常はフィルターを装着する必要はありません。撮影条件や撮影目的によりフィルターを使用する場合は、次の手順で別売の 46mm ネジ込み式フィルターを組み込み式フィルターホルダーに装着します。

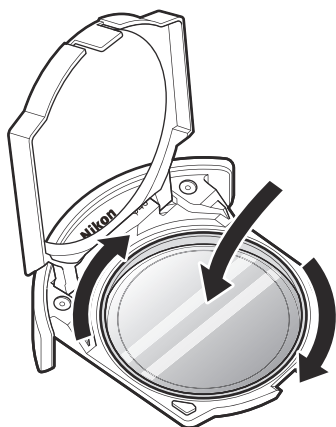
- 1. フィルターホルダー着脱ノブを引き起こして⌚方向に回し
(①)、組み込み式フィルターホルダーを取り外す (②)**



2. 組み込み式フィルターホルダー本体左右の▽部分をつまんでカバーを開ける

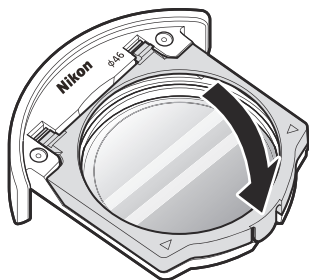


3. 46mm ネジ込み式フィルターをねじ込む

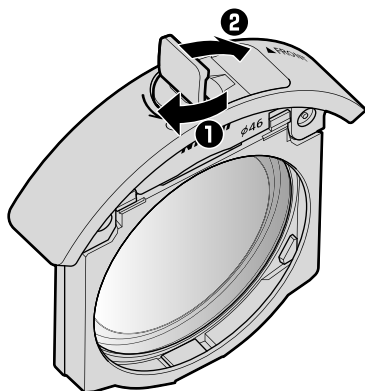


フィルターの形状によっては、組み込み式フィルターホルダーに取り付けられない場合があります。組み込み式フィルターホルダーに合ったフィルターをお使いください。

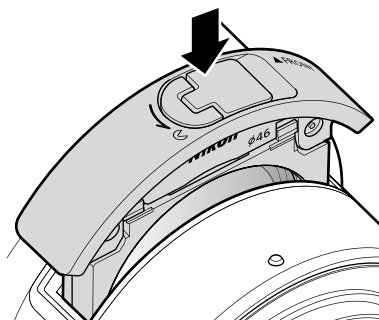
4. 組み込み式フィルターホルダー本体のカバーを閉じる



5. フィルターホルダー着脱ノブを図のように回してから (①)、凹みに倒して収納する (②)



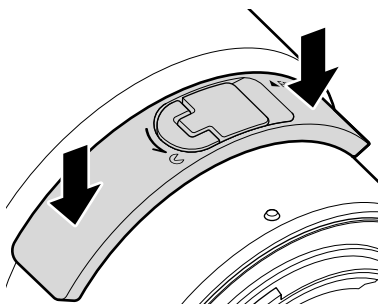
6. レンズの組み込み式フィルターホルダー差込口に、組み込み式フィルターホルダーを入れる



組み込み式フィルターホルダーの FRONT 表示がある側が前（フォーカスリング側）になるように差し込んでください。

7. フィルターホルダーがロックされるまで差し込む

- カチッと音がするまで押し込みます。



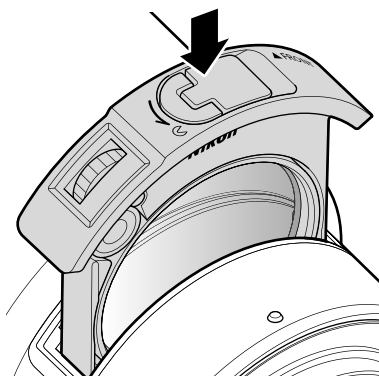
- フィルターホルダーがしっかりとロックされ、外れないことをご確認ください。

別売フィルターを装着する場合

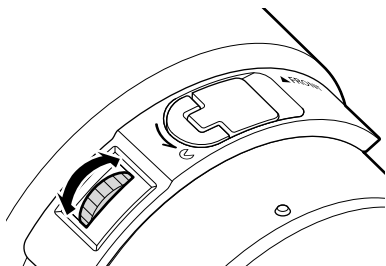
- 距離表示は正常な位置からずれ、最至近がわずかに長くなります。
- メモリーリコールを使用する場合は、ピントを登録する前に装着してください。

別売の組み込み式円偏光フィルター C-PL460 について

- ガラスなどの非金属面や水面の反射光をカットする場合におすすめします。
- 付属の組み込み式フィルターホルダーと入れ換えてお使いください。



- カメラの撮影画面を見ながら回転リングをまわし、反射光の低減効果を調整して撮影を行います。



- 距離表示は正常な位置からずれ、最至近がわずかに長くなります。
- メモリーリコールを使用する場合は、ピントを登録する前に装着してください。
- 高温、高湿下および太陽光が当たる場所での長時間の保管は避けてください。

取り扱い上のご注意

- レンズキャップやレンズフードだけを持って、レンズやカメラを持ち運ばないでください。
- レンズをカメラに装着しているときは、次のことにご注意ください。
 - レンズをカメラに装着した状態でカメラだけを持たないでください。カメラおよびレンズのマウント部分が破損するおそれがありますので、必ずレンズも持ってください。
 - ストラップを使用して持ち運ぶときは、レンズ用ストラップを使ってください。カメラに取り付けているストラップを使って持ち運ぶと、カメラおよびレンズのマウント部分やストラップが破損して落下するおそれがあります。
- CPU 信号接点は汚さないようにご注意ください。
- レンズマウントゴムリングが破損した場合は、そのまま使用せず販売店またはニコンサービス機関に修理を依頼してください。
- レンズをカメラに装着していないときは、必ずレンズキャップを取り付けてください。
- 付属のレンズキャップ（フロントキャップ）は、折り曲げるとシワが発生しますが使用上の問題はありません。

- レンズを水にぬらしたり、湿気の多い場所に置かないでください。部品がサビつくなどして故障の原因になりますのでご注意ください。
- レンズを火の近くなど、極端に温度が高くなるところに置かないでください。レンズが変形することがあります。
- レンズを寒い場所から暖かい場所、または暖かい場所から寒い場所に持ち込むと、レンズ内外に水滴が生じて故障の原因となります。温度差のある場所にレンズを持ち込むときは、あらかじめレンズをバッグやビニール袋などに入れて密閉してください。レンズが周囲の温度になじんだら、袋から取り出してお使いください。
- レンズを傷から守るために、持ち運ぶときはレンズケースに入れることをおすすめします。
- セキュリティスロットに市販のセキュリティーワイヤーを取り付けて使用した際に発生した破損・盗難についての補償はご容赦ください。
- カメラやレンズにクレジットカードなどの磁気製品を近づけないでください。記録内容が壊れることがあります。

お手入れについて

- レンズ面を清掃する場合、通常はほこりを払う程度にしてください。
- 最前面のレンズ面（フッ素コートあり）
 - 指紋など油分を含む汚れがついたときは、柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーでレンズの中心から外周へ渦巻き状に拭いてください。
 - 汚れがひどいときは、少量の真水、無水アルコール（エタノール）、または市販のレンズクリーナーで湿らせた柔らかい布を使って軽く拭いてください。
 - フッ素コート加工されたレンズ面は、撥水性、撥油性が高いため、水滴状の拭き残りが生じることがあります。その場合は、乾いた布で拭き取ってください。
- 最後面のレンズ面（フッ素コートなし）
 - 指紋など油分を含む汚れがついたときは、少量の無水アルコール（エタノール）や市販のレンズクリーナーで湿らせた柔らかい清潔な木綿の布または市販のレンズクリーニングペーパーを使って、レンズの中心から外周へ渦巻き状に拭いてください。その場合、拭きムラや拭き残りがないように注意してください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
- レンズを保管するときは、太陽光のあたるところや防虫剤のあるところを避けてください。また、レンズを長期間使用しないときは、カビやサビを防ぐために、高温多湿のところを避けて風通しのよい場所に保管してください。

カメラの AF 補助光を使用するときのご注意

AF 補助光搭載のカメラの場合、AF 補助光がレンズやレンズフードでさえぎられることがあります。

- カメラの AF 補助光を使って撮影するときの制限についての情報は、ニコンダウンロードセンターでご確認いただけます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときの注意

内蔵フラッシュ搭載のカメラの場合、フラッシュの光がレンズやレンズフードでさえぎられると画像に影が写り込みます。レンズフードは取り外して撮影してください。レンズフードを取り外しても、撮影距離または焦点距離によっては影が写り込みます。

- 内蔵フラッシュ搭載のカメラでフラッシュ撮影するときに影が写り込まずに撮影できる撮影距離と焦点距離についての情報は、ニコンダウンロードセンターでご確認いただけます。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

アクセサリ

付属アクセサリ

- レンズキャップ LC-K106（フロントキャップ）
- レンズキャップ LF-N1（リアキャップ）
- レンズフード HB-104
- ストラップ
- レンズケース CL-L3

使用できるアクセサリ

- 46mm フィルター（P=0.5mm、組み込み式フィルターホルダーに装着可能）
- 組み込み式円偏光フィルター C-PL460
- Z TELECONVERTER TC-1.4x/TC-2.0x

☑ フィルターを使用する場合

フィルターは1枚で使用してください。

☑ テレコンバーターを使用する場合

被写体や周囲の明るさ、フォーカスポイントの位置によっては、オートフォーカスでピントが合いにくい場合や、フォーカスエイドがちらついて表示される場合があります。

仕様

マウント	ニコン Z マウント
焦点距離	800mm
最大口径比	1 : 6.3
レンズ構成	14 群 22 枚 (ED レンズ 3 枚、SR レンズ 1 枚、PF レンズ 1 枚、ナノクリスタルコートあり、最前面のレンズ面にフッ素コートあり)
画角	3°10' (撮像範囲 FX)
	2° (撮像範囲 DX)
フォーカシング方式	IF (インターナルフォーカス) 方式
手ブレ補正	ボイスコイルモーター (VCM) によるレンズシフト方式
最短撮影距離	撮像面から 5 m
最大撮影倍率	0.16 倍
絞り羽根枚数	9 枚 (円形絞り)
絞りの範囲	f/6.3 – 32
フォーカス制限切り換えスイッチ	FULL ($\infty \sim 5\text{m}$) と $\infty - 10\text{m}$ の 2 段切り換え
寸法 (最大径×レンズマウント基準面からレンズ先端まで)	約 140 mm × 385 mm
質量	約 2385 g

製品の外観・仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

PF（位相フレネル）レンズについて

このレンズは、PF（Phase Fresnel：位相フレネル）レンズを採用したレンズです。PF レンズとは、光の回折現象*を利用して色収差を補正するレンズです。通常のガラスレンズとの組み合わせによる色収差の補正能力が高く、光の屈折現象を利用した一般的なカメラ用レンズよりも大幅な小型・軽量化を図ることが可能ですが、画面内外に強い光源がある場合は画像に色つきのリング状のフレア（PF フレア）が写り込むことがあります。

- 静止画に写り込んだ色つきのリング状のフレアは、NX Studio に搭載の「**PF フレアコントロール**」を使って軽減することができます。詳細についてはソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 「**PF フレアコントロール**」は静止画にのみ使用可能です。動画には使用できません。
- NX Studio はニコンダウンロードセンターからダウンロードできます。ソフトウェアは必ず最新版にバージョンアップしてお使いください。

<https://downloadcenter.nikonimglib.com/>

* 回折現象：光は波としての性質を持っています。波は障害物に出会ったときにその影の部分に回りこむ性質を持っており、これを回折と呼びます。回折には屈折とは逆順に色分散が発生する特徴があります。

サービスとサポート

ニコンイメージング会員「製品登録」のご案内

ニコンでは製品を安全に、安心してご使用いただくため「製品登録」へのご協力をお願いしております。ご登録いただいた製品に関するファームアップ情報や重要なお知らせなどをメールでご案内いたします。ニコンイメージング会員登録および製品登録は以下ニコンホームページからお手続きください。

ニコンイメージング会員のご案内

<https://www.nikon-image.com/enjoy/membership/about/>

ニコンイメージングサポートページのご案内

最新の製品テクニカル情報や、ソフトウェアのアップデート情報をご覧ください。製品をより有効にご利用いただくために、定期的なアクセスをおすすめします。



<https://www.nikon-image.com/support/>